

コーディネーターニュース 2016年6月号

3年目のロータリーコーディネーターを終えるに当たり

第2ゾーン ロータリーコーディネーター 金杉誠

国際ロータリーは2010年に会員数の伸び悩みを打破すべく戦略計画を策定し、その計画に基づき諸施策を実行してまいりましたが、残念ながらこと会員数に関する限り未だ十分な成果を上げたとは言えません。勿論私自身コーディネーターとしての実力不足、努力不足を反省しなければいけないのですが、最後に感じたことを申し述べたいと思います。

そもそもロータリー活動と言うものは本質的に自発的なものであり、強制されるべきものではないので、クラブには大きな自主権が認められております。CLPにせよ、クラブ戦略計画にせよ、実行しなければロータリークラブとして認めないということではない、むしろ本年度の規定審議会の結果を見れば、クラブ自主権は拡大される方向にあるとも言えます。

では会員増強の為にどうしたら良いのかと言えば、「我々は何故ロータリアンであり続けるのか？ロータリーの魅力とは何か？」という設問に対しての、地区やクラブのリーダーの皆様方の発信力を磨くということに尽きるのではないかと思います。上記の設問に対するしっかりとした回答を、地区やクラブの皆様方お一人お一人に良くお考えいただきたい、そしてそれをしっかりと集約をして頂きたい、それが地区やクラブの戦略計画策定の最大の目的なのではないかと思います。

得てして日本人は保守的な傾向が強い、そして「和をもって尊しとなす」に表されるように突出した意見や急激な改革を好まない傾向があるように思われます。もちろんその良さもあるのが日本の社会ではありますが・・・。現在のような少子高齢化や、中央一極集中が急激に進展し、格差が開いてきている状況では、いつまでも前例踏襲では困るのではないのでしょうか？前例踏襲を打ち破るためにもリーダーの皆様方の徹底した話し合い、即ち戦略計画策定が必要なのではないのでしょうか？

良く考えますとこの問題は決してロータリーだけの問題ではない、むしろ今の経済社会状況の閉塞感を考えれば、日本全体の問題ではないかと思う次第であります。もともとロータリーはその特徴的な「職業奉仕」の精神によって、日本の経済社会に与えた良い影響は大変大きいと思います。そのように考えていくとき、ここにこそ日本のロータリーの進むべき新しいフロンティアが見えてくるような気がしてなりません。曰く、若者や女性や退職高齢者の入会を促し、地方やわが町を活性化するために努力し、より合理的で生産性を向上させて少ない会費で効果を上げる、これはそのまま、一億総活躍社会の実現であり、地方創生運動であり、生産性の向上による経済の活性化であります。つまりところ、ロータリーにせよ、日本全体にせよ、求められるのはイノベーションであります。私たちが社会に対して負っております責任を思い起こし、ロータリーの再興と日本社会の再興に向かって立ち上がろうではありませんか！その為にはクラブのお一人お一人の勇猛心を期待して最後のご挨拶としたいと思います。長いこと有難うございました。